

心の復興音楽基金 御中

2012年8月19日 「ふくしま・みんなの演奏会」を実施いたしましたので御報告申し上げます。

心の復興音楽基金報告

【公演名】「ふくしま・みんなの演奏会」西本智実さんと共に

楽器を持って集まろう！そして共鳴し、福島を盛り上げよう！
誰でもが参加できる「参加型演奏会」

【日時】 演奏会： 2012年 8月19日(日) 14:00～16:00
リハーサル： 8月18日(土) 14:00～17:00
8月19日(日) 10:00～12:00
指揮者と子ども達の触れあう会： 8月18日(土) 13:00～13:30

【会場】 福島県あづま総合体育館メインアリーナ(福島市)

【参加者】 演奏者一般募集 約 330 名
客席参加者(客席から手拍子・足拍子・カスタネット等で参加) 約 1000 名弱

【プロ演奏者】特別参加

指揮者：西本智実

ヴァイオリン： 江島有希子、早川由希子、マヤー・フレーザー
熊谷勇大、原実和子、イスラエリヤン・カレン

チェロ： 高橋泉

ホルン： 松阪 隼

クラリネット： 高子由佳

トランペット： 宮田康雄

【演奏曲目】

「威風堂々」 … 西本智実と仲間たち＋主に弦楽器
「双頭の鷲の旗の下に」 … 西本智実と仲間たち＋主に管楽器
「ボレロ」 ＊ … 全員演奏＋客席も手拍子、足拍子で参加
「Believe」 ＊ … 全員演奏＋歌で会場全員も参加
「Sparkle」 … 全員演奏

【入場料】 演奏登録費 3,000 円 客席チケット大人 2,000 円 子ども 1,000 円

【経費報告】【演奏者交通費と宿泊費】

演奏者 11 名 交通費 17,800 円x10 名=178,000
20,120 円x 1 名= 20,120
タクシーに代わりバスチャーター1 台 63,000
宿泊費 5,880 円x10 名=58,800
6,850 円x 1 名=6,850

計 326,770 円(申請時演奏者 12 名→1 名欠席で 11 名に変更)

【内容報告】

《演奏会》

2012.8.19 福島の空にクラシック音楽が響き渡りました。県内外から集まった、10代から80代の経験も楽器もバラバラな、とにかく音楽が好きな人たち、330名が西本智実さんのタクトにより一つになりました。ご参加くださったすべての皆様に感謝を込めて、ありがとうございます。

会場の1000名弱のお客さまも一緒になって手拍子、足拍子でボレロ等に参加しました。福島からの参加者は約2/3、県外の参加者は北海道から四国まで、また台湾からの7歳の少女もクラリネットで参加しました。



《指揮者西本さんと触れ合う会》

当初、地元の子ども達を集めてのワークショップを企画しておりましたが、夏休み中との問題もあり、不可能となったので、演奏者の高校生以下の子供達と指揮者西本さんの交流会を設けました。その際子ども達からは色々な質問を出してもらいました。中には、「Q.生まれかわったら どんな楽器になりたいですか?」というかわいい質問がありました。どの子ども達も真剣な顔で指揮者の答えを吸収しているようでした。きっと、子ども達は一生の思い出になったことでしょう。後日、地元の中学校から参加した子ども達がその後のコンクールで全国大会へ出場が決まったとの報告もありました。



《今後の展望》

私達は現在、「第2回ふくしま・みんなの演奏会」にむけて多くの課題と闘いながら検討を重ねております。今回は学生たちの合奏コンクール時期に重なり、参加が難しかった事、指揮者のスケジュール等、時期や場所など、課題は数多くあります。皆様の笑顔をもう一度この地で、あの夢の時間をもう一度と考えておりますが、ご報告まではしばらくお時間を頂きます。





《募金報告》¥69,090-

当日会場で集めた皆様の温かいお気持ちの合計がこんなに大きな額になりました。心より感謝申し上げます。ボランティアの集まりの実行委員会にとりまして大変な力となりました。運営費の一部とさせていただきます事をご報告申し上げます。



《報道・放送されたマスコミ関係》

福島民報・福島民友・河北新報・リビング新聞・シティ情報ふくしま・ふくしまみんなのNEWS・たすけあいJapan・週刊新潮・バンドジャーナル・音楽の友・ぶらあぼ・日経ヘルスプルミエへの掲載
はぴスタ・ふくしまスーパーJチャンネル・スイッチ・みのもんたの朝ズバ！・ラジオ福島・FMポコ等テレビ、ラジオでの紹介

《編集後記》

事務局より

「震災復興支援というタイトルがついているのに、全くそういう雰囲気が無く、なんだったのでしょうか」と言うコメントをくださった方がいらっしゃいました。その方は本当に福島復興の為にご参集くださったのだと、実行委員一同心から感謝いたしました。

私たちはあえて、復興を表面に出さない演出を心がけました。なぜなら、福島では復興という言葉が至る所に飛び交い、県民はある意味この言葉に追い立てられ、疲れているのでは、そう感じていたからです。何もかも忘れ、純粋に音楽を楽しむ場所を作りたい、それこそが私たちが目指したものでした。その楽しい空間により多くの方にご参加いただくという事を大切にしたい、福島の実行委員の思いを、どうぞご理解ください。

この演奏会の実行委員、および運営委員は皆、ボランティアの集まりでした。そのため現場では皆様への対応に不向きなことも多かったかと思います。今回の反省を次回に活かせるようにして行きたいと思います。

会場でご覧になった福島の参加者達、特にお子さん方の笑顔を、もう一度思い出していただき、皆様のお住まいの地域で伝え続けて下さい。

私たちは「みんなが語り継ぐ」それが、福島の復興につながると信じております。

実行委員より

昔、「大草原の小さな家」の中で父親がヴァイオリンを弾き、家族が楽しそうにしている映像を憧れの眼で見ていた子供が、大人になった今、福島でどの家庭の中にもこんな風に音楽があふれていたら、毎日が笑顔でいられるのかも、という夢を見始めています。この演奏会をそのきっかけにしたい。今後も頑張ります！(Y)

一人の人を元気づけたいと云う小さな思いやりが、周囲の人々に伝わり、音楽を愛する人々に伝わり、最後は大きな形となって8月19日を迎えることが出来ました。この波動はこれからも伝わって行くことでしょう。人々の可能性は無限大です。きっと素敵な未来が待っていることを信じます。(T)

初めてお会いした方々と、大切な時間を共有し、演奏会を作り上げて行く…ド素人の集まりだからこそ、怖れ知らずに企画できたコンサート。でも、見事な大玉の打ち上げ花火が上がりました。出会いに感謝！(Y)

私は、十七年前に阪神淡路大震災で被災いたしました。あの時に支援していただいた方々に恩返しをしたいと思い、このプロジェクトに関わらせて頂きました。音楽を通じて人々が一体となる、心がひとつになる演奏会を毎年恒例に出来たらいいなと…そしてこの演奏会が福島復興の一助となればと願って止みません。(I)

大きな夢であった演奏会に向けて走り続けてきました。演奏者の皆さん、サポートしてくださいました皆さん、そして実行委員会の皆さん 本当にありがとうございました。感謝の気持ちで溢れています。(M)

みんなの演奏会に参加した事で人と人との絆を肌で強く感じました。日本の復興のために…その思いがああ音色を引き出したのだと思います。あの夏は、わたしにとって忘れられない夏になりました。これからも長期的に被災地をサポートしていきたいとより一層強く感じています。(N)

《楽器を持って集まろう》という1人の呼びかけが2人へ。2人から10人の実行委員へ。そして全国から、海外からも。そして総勢1000人を越える方々による「音と音」「笑顔と笑顔」の出会いがありました。この出会いこそが《音を楽しむ原点》であるとわたしたちは考えて、この演奏会に向かって歩んで来ました。これが、福島の明日への一つの礎になりますように。(O)

【主催】ふくしま・みんなの演奏会 実行委員会

実行委員長 林 妙子(プロアルテムジケ勤務)東京都多摩市桜ヶ丘 4-4-11

副委員長 名和良江(福島在住) 福島県福島市笹木野字笹木野原 2-23

【後援】東北観光博実行委員会、日本政府観光局、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島市商店街連合会、JA全農福島、福島市観光物産協会、土湯温泉観光協会、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島 FM、福島民報社、福島民友新聞社、毎日新聞福島支局、スポーツニッポン新聞社福島支局、河北新報社、下野新聞社、国際ロータリークラブ 2530 地区、国際ソロプチミスト福島、Music Japan TV

【協力】株式会社スペースウッズ、株式会社プロアルテムジケ